

いよいよこの秋 開催

月日会50周年記念総会

11月16日(土)午後2時開会 皇川プリンスホテルにて

母校への熱い思いを
一期／五十期までを一堂に

月日会々長 田中博隆 (六期生)



田中博隆 (六期生)

会員の皆様には日頃よりご協力を頂き誠にありがとうございます。また昨年九月から発足した準備委員会(委員長千本俊江15期)を中心に、五十周年に向けての活動をしており、それに伴ってのご支援協力の数々に改めて感謝申し上げます。今回この会報で全会員に記念総会への参加の呼び掛けをしており、その中で是非、記念特集号の記事を読んで頂き、同期生、クラ

申込方法

参加申込のハガキを返送していただいた方に振込用紙とご案内をお送りします。

■会費
1～45期 一〇、〇〇〇円
46～50期 三、〇〇〇円

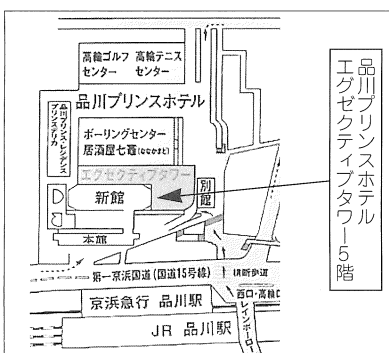
■会場では午後一時半より受付開始。午後四時半閉会。

総会 次第

- 一、開会宣言
会長挨拶
一、議事
事業報告・会計報告
会計監査報告・その他
一、懇親会

アトラクション

- ・夢アンサンブル
・エレクトーン演奏
・お茶席コーナー
・展示コーナー



交通

●JR線・京浜東北線品川駅
●首都高速1号線羽田線芝浦ランプから約2km羽田空港から20分。東京シティエターミナル(箱崎)から約20分。東京駅から20分。銀座から15分。

50周年記念特集号

50周年記念総会に出席予定の先生方(六月一日現在)

船本治義・内藤隆・前田徹・古川稀久・吉田秀男(以上元校長先生)
大間一男・武林一成・飯田利行・伊藤明則・森(江頭)博子・大塩宏一郎・奥田恵瑞・奥田義雄・奥田亮二・影山維昭・片桐則夫・慶徳孝・小泉賢一・篠田九良・清水孝雄・新垣進一・千葉勝吾・寺久保勲・豊田岩男・長沼淑子・能村けい・平川隆太郎・冬城照夫・本間研一・宮前好男・村山あき子・望月昭和・湯田省三・橋本隆司・志賀重之・森本静子・杉山孝・北原保雄
(順不同・敬称略失礼します。)

第五十三回入学式

去る四月九日、初夏のような陽射しのもと、母校体育館に於いて五十三期生の入学式が挙行されました。筆曲部の「さくらさくら」に迎えられて入場、呼名に続いて山田辰明校長から「入学を許可します」との宣言がなされ、肅々と式辞が述べられました。新入生の胸には、月日会から贈られた真新しい校章が光っており、田中会長以下参

列の幹事一同親しみを持って、五十三期生の入学を祝福致しました。

第五十期生 卒業おめでとう!

今春、五十期生二四〇名が卒業し、一期から五十期まで揃って、いよいよ五十周年記念行事の外枠が整いました。さっそく五十期生にも幹事や準備委員に加わって頂いて、準備にも力が入りそうです。

同窓会創立五十周年を祝して

田園調布高校長 山田辰明



同窓会創立五十周年を迎えたのを機に、百年に向けての抱負を述べさせていただきます。月日会へのというより田高全体のあり方に重点をおきたい。

現在、我が田高も明治以来三度目になる大きな学校改革の大海の中を航行している。改革の柱の一つは、国レベルで実施される学校週五日制に伴う教育制度の改定。具体的には週五日という限られた授業時数の中で、六日制時代の教育内容に劣らない教育内容の精選化、充実化である。また、高校では時代の変化に対応した新しい科目が設けられた。「総合的な学習の時間」、IT時代を踏まえ、教科「情報」等である。

一方田高を含めた都立高校では国レベルの改革に加えて、都独自の改革が進んでいる。例をあげる。学校管理運営規定の

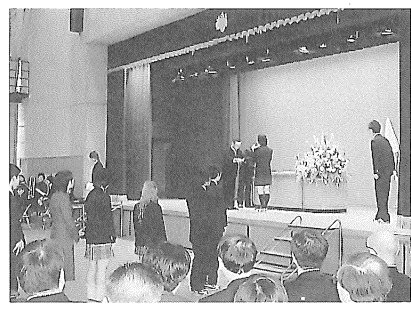
設置、外部委員が主体となる学校運営委員会の発足、学校評価制度の実施、保護者や中学生・関係者を対象とした授業公開や学校公開日を置くこと、主幹制度の新設、学校HP等を通じての情報公開、社会人講師の招聘、学校施設・設備の地域への開放、地域の諸団体と連携、高大・中高連携等、枚挙に遑がない。

いづれも、バブル期から崩壊期にみられる日本のまた東京都の社会、経済、文化の急激な変容と国際化が背景としてある。今の教育界を取り巻く状況は、あたかも大きな外圧のものと明治初頭、学校制度の改革、整備が急進した時期を彷彿させる状況である。

しかし私は、このような大変動の時代であっても、教育に関わる者は、徒に右往左往することなく、確かな手がかり、指針のもと、慎重かつ大胆に航路を進めて行けば必ずや目的地に達すると信じている。

肝心なのは、田高の将来はどうあるべきか、振り所、指針をなにに求めるかである。

正直言わせていただければ、私は寝ても覚めてもそのことが



いつも頭の片隅にあるが、私もともと根が単純のせい、教育の王道は一つしかないと思っている。

それは「生徒のためになるか、ならないか」である。

田高生徒は今も昔も、大部分の者が上級学校への進学を希望している。その希望を叶えさせるための手だて、環境を学校が積極的に構築し、整え、そして生徒に関わってほしい。

入学してきた生徒にどれほどの力(学力、実践力、精神力、倫理観)をつけて、付加価値をつけて世に送り出すか、これに尽きる。

しかし、言うは易し行は難し。その積極的な「度合い」、レベルが大きな問題である。「度合い」など無い、しやにむにやればよい、と言ってしまえばそれまでであるが、戦後から現在まで長期にわたって教育界も労働運動の渦の中で揺れ動いている。簡単にはいかない。

従って社会の進展に対応すべく「度合い」を確実に高め、深めていくためには、学校内外から、それ相当の変革エネルギーを、息長く、学校現場に注ぎ続けていく必要がある。

多摩

「空着きかなた富士の嶺高し われらこそ集い 誠実ひとすじに学ぶ」何年振りかで皆で唱った校歌でした。所々は忘れかけてはいましたが、久しぶりで

「空着きかなた富士の嶺高し われらこそ集い 誠実ひとすじに学ぶ」何年振りかで皆で唱った校歌でした。所々は忘れかけてはいましたが、久しぶりで

「空着きかなた富士の嶺高し われらこそ集い 誠実ひとすじに学ぶ」何年振りかで皆で唱った校歌でした。所々は忘れかけてはいましたが、久しぶりで

新会員

五十期生

二百四十名

月日会会員は延一万三千八百六十五名となりました。連絡可能会員は、約一万一千名です。

月日会新名簿(二〇〇二年十月発行)の申し込みを受け付けます

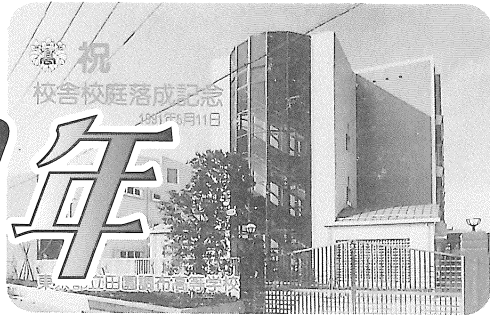
50周年記念号として、二〇〇二年秋の発行を予定して編集作業中です。2度の「調査カード」により不明者の数もだいぶ減りました。

名簿のご購入予約をいただいた会員、協賛金・広告のお申し込みをいただきました会員の方々は、改めてお礼状と振込用紙をお送りさせていただきます。未だの方は是非記念にお申し込みをお願い致します。



50周年

love Denko
田高



校舎を改築

第十代校長 前田 徹
(平成元年～平成三年)

同窓会の五十周年記念総会心よりお祝い申し上げます。

私が本校に着任したのが平成元年四月の校舎改築の真っ最中で、新幹線側に建つ旧校舎一階の校長室は引越越し荷物で埋まっていた。昭和六十年に計画された工事が埋蔵文化財が出て遅れ、苦勞された内藤隆前校長の後を引き継ぐこととなった。それでも十月には区立図書館側に新校舎ができて全校で引越した。二十一億円をかけた素晴らしい校舎で、全面総ガラス張りの玄関を入ると交流広場が

あり、版画家河内成幸氏の造った空を飛ぶ鶏のレリーフが壁にそびえる。更に階段状座席の視聴室やパソコン教室、L.L.教室、和室、屋上プールを備えた格技室などができた。機会があればぜひ見学して欲しい。その後一年半経ってやっと運動場、新テニスコート、自転車置き場が落成した。

平成三年五月、六年間かかった大工事が終わった落成式を開催した。式典の後筆部曲と吹奏楽部の演奏で本校の伝統と文化の高さを来客に示した。午後の祝賀会には二百人以上の客が集まり盛会となったが、これも田中会長を初めとする月日会のお陰と感謝している。PTAもこの機会に清流会という同窓会組織ができて十年以上も経ち今も続いている。



心ふるさと田高

心のふるさと田高

シナリオライター
内館 牧子(15期)

田高は私の心のふるさとです。御嶽山駅の古いベンチ、木造校舎、そして空気の匂いや夕陽の色までいつでも思い出されます。田高に入学できて幸せでした。

昭和29年田高に入学、戦後9年がたついているとは言え自分の中では戦後は終っていない。入試の1ヶ月前に千葉の村から上京、受験した。無事入学出来たのは科目に英語がなかったからだ。成績は常に中下、しかし英語担当の浜中先生はもっと勉強しなさい等とは一言もおっしゃった事はない。それから20数年後ひょんな事から浜中先生を囲む1泊旅行のクラス会が始まった。行先は毎年同じ箱根、この会は浜中先生がお亡くなりになった2年前まで続いた。

誰よりも何よりも一番喜んで下さったのが浜中先生だった。夜12時すぎまで夜鳴きそばを召しあがりながら本音のおしゃべりしたまま楽しく過ごしていた。そんな私も外資系会社で無事定年を迎えられたのも嬉しい事だと思ってます。

10期 矢口 雅章

思い出1 まずあの木造の体育館です。バスケット部の練習で、ロングパスが梁に当り投げた本人に戻ってきたり、梁の上を通すシュートが出来たことなどは今の世では無い光景です。その体育館で、森元先生の華麗で正確な両手のミドルシュートには驚かされたものです。

五十回目の同窓会を目前に昨年三月、夫が死去。同窓会の幹事の皆様には、大変お世話になりました。そして大勢の一期生のお友達にお別れをして頂き感謝しております。

前名誉会長夫人
家入 園子(3期)

ミシシッピーより

なりました。成田・サンフランシスコ(泊)・メンフィス・MC・ジャクソン着の長旅でした。今回はシカゴ・アトランタ・ジャクソンと、朝我が家を6時に出て、こちらに着いたのは、26時間後でした。



ありし日の家入名誉会長と月日会幹事

このジャクソンには、州議会堂があり、ダウンタウンには高層ビルがあり、アトランタには緑の多い街で、樹林帯の中に街や道路を作ったのではないかとと思うほどで、10m以上ある灌木に覆われて自然がいっぱいあり、この時期は、蜜がとんでとても幻想的眺めです。観光地でもなく、日本の企業があまり無いせいか、何回も来ていますが、一度も日本人に会ったことがありません。

私達一期生は、大森海岸を臨む小学校の一部を仮校舎としてスタートしました。旧友の殆どは、何らかの挫折を味わった仲間達で、和気あいあいの中にもハングリーで野心を秘めた不揃いな高校生でした。月日会の名付親である菊池卓夫先生からお聞きした忘れられない話を披露しましょう。かつて大浦君江先生が女教師時代に、版画家の棟方志功のモデルとして親交があったそうです。それ以来、私は、その版画を見る度に、うす紅色に頬を染めた豊麗な女性に、若き日の大浦先生を思い浮べています。最後に、亡き友、家入正男さんへ、長い間ありがとう。十一月の五十周年記念同窓会には、きつと多くの一期生が参加しあなたを思ふ事でしょう。

1期 染野美代子
田園調布高校五十周年記念を祝し、バンザイ!!
戦後、やっと草木が芽はえる頃、国鉄大森駅と蒲田の間に大森の「大」、蒲田の「田」を取って「大田高校」が誕生いたしました。そうです、今の「田園調布高等学校」です。私達一期生は三年生の時から田園調布の新校舎に移り、卒業いたしました。

3期 野原 尚子(バレー部)
私達三期生は四十八年前に大田高校に入学しました。当時は大森海岸の小学校の仮校舎でした。そのうち沼部に三学年一緒にやつと高校らしい生活を送ることが出来たのです。校名も田園調布高校と変わったのです。私はバレー部に所属し、森元先生にはいろいろ御指導いただきお世話になりました。又先輩の一期生大原さん、小野里さん、二期生の前田さん、林さん達に特訓を受けた女子チームは力をつけ関東大会に東京代表として選ばれて出場し、森元先生のおふりしに合宿に行ったり楽しい思い出がたくさんあります。

6期(昭和33年卒業)の皆さんへ
今年11月16日(土)開催の田高50周年記念同窓会を品川のプリンスホテルで実施するように目下、準備委員会を中心に検討中です。6期の皆さんと久し振りにお逢いしたいものです。
11月16日(土)の予定に「田高同窓会」と明記して、是非御参加下さい。
お逢いできるのを楽しみにしています。

9期 簡 敏子

卒業して40年余、物理的な面に至っては駅前の小道から学校への坂道にほんの少し記憶があるだけで校舎、グラウンド等在校当時のイメージはまったく湧いて来ない。

反面、物の見方、考え方の上で今迄の私が歩んで来、これからは歩み続けるであろう指針となっている恩師の方々のいくつかの言葉は鮮明に焼き付いている。

○一学年担任吉田善雄先生・他人からの頼まれごとには優先せよ。人に優しく自分に厳しくを常に心掛けなさい。

○二年担任山下良章先生・週刊誌は百害あって一利なし

○三年担任大浦君江先生・貴女は日本語同様に母国語も出来ますか、中国はこれからの国です。立地条件を生かし両国に関心をもち続けなさい。

○二年で選択した人文地理の奥田先生・食べ物、着る物、文化、芸術等全てに一度は最上のものを味わい経験しなさい。そうすることによって本物を見る目を養う事が出来ます。

以上の言葉・アドバイスは充分実行出来ているかは別として私に多大な影響を与えています。

月日会の皆様へ

清流会会長(元PTAの会)

石井 庄四郎

皆様には日頃より本PTA・OB・清流会の活動にご理解とご協力を頂いております。

今年二月に清流会創立十周年記念式典を開催致しましたところ、田中会長を始め役員の皆様方、山田校長先生、元先生方にご来賓を賜り、ご祝辞を頂戴し盛大に開催することが出来ましたことを紙上を、お借り致しまして厚く御礼申し上げます。

月日会の根幹をなす田園調布高等学校の誠実・敬愛・自主と定めた教育方針は歴代校長先生を始め諸先生方によって磨き培われた宝の校訓で現代の心の持ち方を真直に表現していると信じます。

本校入学式に山田校長先生の力強く凛とした心の引き締まる式辞、純真無垢な幼さが残る初々しい生徒が三年間の田高教育によって心身共に磨かれ、逞しく知的に成長した生徒の卒業式に毎年列席させて頂いていますが近年は特に自主性尊重の気風が見える学校側、そして一人一人それぞれが無言のうちに自分の気持を表している生徒、素直な清楚な態度で式に臨む卒業生が月日会の未来を担っているものと強く信じています。

清流会十周年



十周年記念会場にて

もともと、地域社会に近隣に開かれた期待される教育の殿堂として、努力されていること宜しくお願い申し上げます。

私たち元保護者、PTA・OBとして田高が月日会が心の拠り所として永遠に健全で在ることを心に念じております。

御会が本年錦秋の季節に五十周年記念総会が開催されますこと心より御祝い申し上げます。

月日会の皆様には、今後とも清流会にご支援の程切にお願い申し上げます。

熱中時代

作家

金久保茂樹(14期)

「詩人は十六歳の感受性を持ち続けなければならない」という詩人・ランボーの一文を目にしたのは、まさしく十六歳の高校時代だった。詩人になるつもりはなかったが、似たような仕事を夢見ていたのは「十六歳の感受性」を金科玉条のように唱え続け、ついに五十路を迎えて、念願の作家稼業に就いた。

五十五歳の現在も、感受性は十六歳のままと自負しているが、それと引き換えに、五十代の分別を身に付けることを忘れてしまった。



高校時代は、あらゆることに挑戦した。放送委員会や放送劇を自作自演したり、落語研究会を作ったり、仲間とバンドを組んだり、同人誌を作ったり。勉強もせず、そんな活動ばかりに熱中できたのも、懐の深い先生方、優しい先輩、爽やかな同級生のおかげだ。

田園調布高校の三年間は、間違いなく、多くの人生の宝なのだ。



あのころの風景

マンガ家

植松 正通(14期)

田高を卒業しては30余年になりますが、高校生ぐらいの時の記憶というのは鮮明で、今でもよくあのころの風景を思い浮かべることが出来ます。

思い出2 通学時、品鶴線沿いから富士山を正面にドツカと望むことが出来た日は何か良いことがありそうな気がして足も速く進みました。

そして、素敵な女生徒が沢山いたことも忘れられない思い出です。これを書いていても、きゅと胸が締め付けられる想いが...

東京在住なら、自分の子供も田高に入れたかったな。

24期 山本 順子

50周年記念同窓会の開催を心からお祝い申し上げます。50年と言えば半世紀、田高の変遷も如何許りかと思われまふ。私が田高に通ったのは74年・77年で、もう私服通学が許可されていた。個性豊かなクラスメイトや先生方・先輩方、修学旅行は東北で帰路は寝台車、ぼろにあ祭では演劇や映画作りも盛んだった。クラス対抗のバレーやバスケットは応援にも熱が入りました。様々な場面が思い出されます。

12期 長田 明子(横田)

十二期生の皆さん、タイムマシンがなくても瞬時に高校時代に戻れます。姿は無理でも気持ちにはあの頃に戻れます。記憶の片隅に残っている田高時代の扉を一気に開けてみましょう。

25期 磯邊 富雄

昨年暮れに失業し、職安を介して職業訓練の為に学校に通わせて頂きました。クラスメイトの背景は様々ですが再就職に向けて互いに助け合い励まし合う仲間となりました。中年に達してから全く新しい分野の勉強を始めるのは容易ではありません。若い時の基礎教育の大切さを痛感しています。田高時代には人生の目的が見え出せず頑なに勉強を拒んでいたように思います。田高の先生方はこの出来の悪い生徒にも愛情を注いで下さり、本人も自覚しないうちに小さな種を植え付けて下さっていたようです。すぐには芽を出しませんでした。今新しい職場の研修が始まったところです。今度の勉強は長く続けられそうです。

12期 上遠野富久子(清水)

十二期生の皆様、あの同期会は一九九三年九月のことでした。月日のたつのは早いものと懐かしく写真を眺めています。五十周年記念同窓会の席で再会いたしましょう。

48期 土屋 裕香

50周年、おめでとうございませう。田高でいいかげんに生活を送った私ですが、現在は社会人となつて、働いています。田高での部活や、友人を通じて知り合った人達は、とてもいい人ばかりでした。先輩は優しく、友人は大切な仲間です。出会えた事が、とても嬉しです。先輩、色々お世話になりました。ありがとうございます。仲間へ、いつもありがとう、これからもよろしく。愛してるぜ。



月日会ホームページ：
<http://www.tsukihikai.gr.jp>
管理者メールアドレス：
webmaster@tsukihikai.gr.jp

情報委員会での主な活動であるホームページについてですが、昨年から田園調布高校のホームページも月日会の管理となっています。私が在学中、自分を含めたパソコン部によって作成・管理されていたのですが、管理が曖昧になっていたので、校側に相談した

情報委員長 浅田裕一 (45期生)

月日会 ホームページについて

と、学校からの依頼を受け、という形で月日会が管理することになりました。現在、山田校長先生が発行する「校長室だより」に掲載し、メインのコンテンツとしてしています。

次に、月日会ホームページへの会報掲載ですが、基本的に画像データとして掲載することにした。ホームページ立ち上げの頃に比べ、サイズが大きくなって、ファイルサイズが大きくなって、あまり問題がなくなってきた。というのも一つの理由です。これまでの過去の会報をご覧になったことがない方は、目を通して見るのも面白い

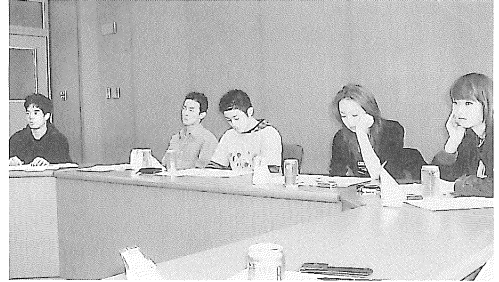
かもしれません。

最後に、月日会五十周年に向けてですが、原稿執筆時の案としては月日会ホームページ上で行事の内容や会場についての案内、また参加申込みなども出来るようにしよう、というものがあつた。終了後は会場の様子などを掲載し、参加された方にも雰囲気をお伝えできるようにしよう、という面でも、活用という面でも、いいチャンスでもあります。五十周年という大きな行事ということもあり、情報委員会としても気を引き締めて取りかかろうとしています。

また、引き続きホームページについてのご意見・ご要望をお待ちしております。



前教頭木嶋先生を囲んで



50期生を迎える幹事会

幹事会便り

幹事長 熊谷和巳 (38期生)

平成13年度の主な活動は次の通りです。

- 平成13年
- 4月 入学式出席・校章バッチ贈呈 常任幹事会
- 5月 会報22号編集
- 6月 財団法人田園調布評議会 会報22号発行
- 9月 第1回幹事会
- 10月 第1回50周年総会準備委員会 ぼろにあ祭参加 バザー協賛
- 12月 常任幹事会 第2回幹事会
- 平成14年
- 2月 第2回50周年総会準備委員会
- 3月 卒業式参加・紙筒贈呈 第3回幹事会
- 随時・田園調布ホームページ編集
- 月日会ホームページ編集

今期も総会の開催も含め多数の行事が控えています。今期も一層、会員の皆様のご協力をお願いします。

平成14年度の主な予定

- 6月 会報23号発行
- 9月22日 ぼろにあ祭 (展示・バザー協賛)
- 11月16日 月日会50周年記念総会

ぼろにあ祭に参加

11期 鈴木 洋子

昨年九月二十二・二十三日恒例のぼろにあ祭(文化祭)が、母校で盛大に開催されました。月日会では例年通り展示と、ふれあいバザーという形で参加しました。今回展示室では、思いの写真を展示する一方、絵手紙体験コーナーやデジタルカメラとパソコンを使っているのりくらコーナーを設け、楽しいおしゃべりから親睦の輪が広がりました。PTA主催のふれあいバザーは、年を追うごとに趣向を凝らすなどして盛況で、売上金から五万円は例年どおり大田区へ寄付されました。



月日会の絵手紙講習会

学校運営 連絡協議会 を経験して

37期 小西 正晃

昨年度から都立高校に「学校運営連絡協議会」というものが設置されました。田園調布高校でも大田ろう学校長、東調布中学校長、嶺町特別出張所長、自治会長、旧PTA会長、清流会、月日会からの外部委員と学校内のメンバーが発足しました。限られた時間ではありましたが、有意義な議論が交わされました。

一番大きな仕事として、学校評価アンケートを実施しました。対象は生徒・保護者・教職員・地域で、同様の設問をもうけて比較をしたり、それぞれの立場で回答をいただきました。共通する意見としては学校設備に関すること(冷房をつけて欲しい)や、生徒が充実した学生生活を行っているということでした。また評価が分かれたものとしては生徒会活動や学校行事について教員は比較的活発だと思っているが生徒は否定的であったり、生活指導などについても教員と生徒では違いがでています。

このようなアンケートは継続して実施することで、実際の評価につながるもので、今回は慎重に設問を選びました。少しずつ改良を重ねて今後の学校運営に活かしていただきたいと思います。

校章の謂われを 知りませんか?

14期 初音みね子

五三の桐?三三の桐?とも言われている校章「桐」について詳しい事を御存知の方お知らせください。

田園調布三十周年記念誌の中で菊池卓夫先生は、初代校長岡沢武先生との話の中で「校章のことだがね、松竹梅とか桜というの月並みだろう。共学だから桃という訳にも...やはり桐も

財団法人 田園調布

理事長 田中博隆 (月日会々長)

財団はご寄付と基本財産の果実活動する法人格の団体です。主として新入生のご家庭から入学時一〇七〇〇〇〇円の寄付をいただいております。副理事長は今泉敏子(PTA会長)さんには、大変ご理解とご支援をいただいております。

月日会も年々五万円の寄付をいただいております。これからは少しでも寄付行為が出来ますよう努力してゆきたいと思っております。会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。学校、PTA、月日会(同窓会)清流会(元PTA)のオール田園調布が一つとなって田園調布の教育活動の振興並びに田園調布を核とした関係諸氏、諸

会計報告

平成十三年度分の月日会収支は表記の通り決算致しましたのでご報告申し上げます。

なお、会計項目名「情報委員会費」は前年度まで「ホームページ作成費」の名称でしたが、変更致しました。

会計監査 熊谷和巳 (38期生)

平成13年度 会計報告			
収入		支出	
前年度繰越金	2,139,085	幹事会費	456,705
		通信事務費	37,155
		会報発行費	1,509,520
卒業生入会金	1,200,000	名簿編集費	105,000
銀行利息等	396	月日会50周年総会準備費	200,000
年会費	1,057,530	月日会50周年記念寄付	420,000
名簿売上	0	ぼろにあ祭参加費	116,300
寄付	318,500	卒業生記念品費	70,743
月日会50周年記念寄付	420,000	新入生記念品	70,110
母校50周年記念誌売上	9,000	田園調布寄付	50,000
		情報委員会費	48,063
13年度収入計	3,005,426	13年度支出計	3,083,596
		次年度繰越金	2,060,915
合計	5,144,511	合計	5,144,511

平成14年度 予算案			
収入		支出	
前年度繰越金	2,060,915	幹事会費	400,000
		通信事務費	150,000
		会報発行費	1,900,000
卒業生入会金	1,200,000	名簿編集費	120,000
銀行利息等	385	月日会50周年総会準備費	200,000
年会費	1,313,700	月日会50周年記念寄付	400,000
寄付	400,000	ぼろにあ祭参加費	90,000
月日会50周年記念寄付	400,000	卒業生記念品費	80,000
		新入生記念品	80,000
		田園調布寄付	50,000
		情報委員会費	200,000
		予備費	50,000
14年度収入計	3,314,085	14年度支出計	3,720,000
		次年度繰越金	1,655,000
合計	5,375,000	合計	5,375,000

会計監査 大蔵 正人 (8期生) 原 雅裕 (29期生)

会計監査

平成十三年の度会計報告について適法かつ妥当であることを認めます。

あらためて次回総会で報告いたしますが、先に会報でお知らせしておきます。

他校同窓会事情

小山台高校 菊桜会

我々は旧制中学校時代から数えて、来年で80周年になります。同窓会の活動は、会報発行と総会を毎年一回開催しています。名簿は三年おきに作成。二年前に同窓会会館が完成し、財団法人小山台が管理運営し、講師派遣センターを創設しました。卒業生が登録して一般向けの区の講座などに講師として出向いています。

大崎高校 梧桐会

大崎高校は今年創立90周年になり、同窓会の創立は昭和12年7月で、今年で65年になります。

会報は年に一回、4月に発行、総会は5月第2日曜日(母の日)です。名簿は今年発行の予定で、10・15年に一回です。若い世代の参加は少ないですが、20・40年代卒業の方の参加が多く、会員数は1800名を超えました。

